

HbA1cの国際標準化に伴う表記法の変更

HbA1cは、国際的に糖尿病治療上の重要な指標として汎用されているが、わが国で使用されてきたJapan Diabetes Society (JDS) 値で表記されたHbA1cは、わが国以外のほとんどの国で使用されているNational Glycohemoglobin Standardization Program (NGSP) 値と比較すると約0.4%低値であるという問題があった。そこで日本糖尿病学会では、従来のJDS値で表記されたHbA1c (JDS値) に0.4%を加えた新しいHbA1c値に表記法を変更することを決定し、先にこれを「国際標準値」と呼ぶこととした(国際標準値はNGSP値そのものではなく、あくまでもNGSP値に相当する値)。そして2010年7月1日以降、英文誌の原著論文や国際学会の発表においては国際標準値を使用し、和文論文(原著論文を除く)や和文著書、国内学会の発表においては、JDS値と国際標準値の両者を併記することとした。2011年6月発行の本書においても、この方針に従いJDS値と国際標準値の両者を併記している。また、日常臨床や検診・健康診断などの場においては、当面は従来のHbA1c (JDS値) を継続して使用し、別途告示する日時をもって、HbA1c (国際標準値) に全国一斉に変更することとした。

しかしその後、2011年10月1日付で、(社)検査医学標準物質機構(ReCCS)がNGSPの基準測定施設であるアジア地区Secondary Reference Laboratory (SRL)の認証を取得したことを受け、国際標準化に向けた検査の標準化・最適化を目指して関係諸団体と協議を重ねた結果、 $NGSP\ 値(\%) = JDS\ 値(\%) \times 1.02 + 0.25\%$ という換算式^{注)}が確定し、「国際標準値」(NGSP相当値)ではなく、正式に「NGSP値」と呼ぶことが可能となった。そこで2012年4月1日以降、HbA1cの表記とその運用を、以下のように改めることとなった。

1. 日常臨床においてもNGSP値を用い、「HbA1c (NGSP)」と表記する。従来のJDS値は「HbA1c (JDS)」と表記し、当面の間、両者を併記する。
2. 特定健診・特定保険指導に関してはシステム変更や保健指導上の問題を避けるため、2012年4月1日～2013年3月31日の期間は、受診者への結果通知および医療保険者への結果報告のいずれにおいても、従来どおりJDS値のみを用いる。2013年4月1日以降の取り扱いについては関係者間で協議し検討する。
3. 検査項目名の表示・印字文字数が5文字以内となっている臨床検査システムでは、すでにHbA1c (JDS) に対して「HbA1c」の項目名が使用されているため、HbA1c (NGSP) についてのみ、その項目名を「A1C」とするなど、簡便に判別できるようにする。

注) この換算式で計算すると、以下のようになる(小数点以下第三位まで計算し第二位を四捨五入)。
① JDS値で4.9%以下ではNGSP値(%) = JDS値(%) + 0.3%、
② JDS値で5.0～9.9%ではNGSP値(%) = JDS値(%) + 0.4%、
③ JDS値で10.0～14.9%ではNGSP値(%) = JDS値(%) + 0.5%。逆に①NGSP値で5.2%以下ではJDS値(%) = NGSP値(%) - 0.3%、
②NGSP値で5.3～10.2%ではJDS値(%) = NGSP値(%) - 0.4%、
③NGSP値で10.3～15.2%ではJDS値(%) = NGSP値(%) - 0.5%

- 詳細については、日本糖尿病学会のホームページ (<http://www.jds.or.jp/>) を参照のこと。
- 本書におけるHbA1cは2012年4月1日の変更以前の記載(JDS値と国際標準値の併記)となっているので、現在の表記とするには上記式を用いてJDS値から換算すること。
- IFCC値については、本書の「付録B. HbA1cのJDS値、NGSP値、IFCC値の換算表」を参照のこと。